

- 経理上手くんα DX VERSION:14.307
- 経理上手くんαクラウド DX・経理上手くんαクラウド SE DX VERSION:14.307

当プログラムは、マイクロソフト社のサポート対応終了に伴い、Windows XP・Vista・7・8.1・10 搭載機へのインストールは不可となっています。

◆ 請求書管理オプション

- 請求書管理オプションに関する動作等について下記の改良を行いました。
 - ・ 請求書管理オプションと財務処理 db マスターの連携方法の変更
 - ・ 仕訳連携における会計処理の追加
 - ・ 「原票イメージ保存：行わない」のマスターでの仕訳連携に対応
 - ・ 仕訳連携時のメッセージを変更
 - ・ 会社選択画面にて連携済マスターにアイコンを追加
- ※請求書管理オプションを使用するには、別途ご契約が必要です。

◆ 登録・入力

- 仕訳入力
 - ① 証憑/カード/通帳のすべての読取種別において、年度を読み取った際の認識結果を変更しました。
※証憑読み取りは電子帳簿保存法オプションの契約が必要です。
 - ② 出納帳入力で摘要において、Enter キーでの前行複写を行った際に、2 行前の消費税情報（税率、免税事業者等からの課税仕入れ、登録番号）を複写してしまっていたのを修正しました。

◆ 出力（DX・Pro II のみ）

- 総勘定元帳（αの場合は登録・入力／指定元帳）
 - ① 「損益勘定への振替を行う」「損益勘定元帳を出力」は、出力期間に決算修正月が含まれている場合に、チェック ON にすることができるが、一括印刷・電子帳票作成業務において、決算修正月が含まれているかどうかの判定が一括印刷側だけでなく、総勘定元帳側の選択も判定に含まれていたため、一括印刷・電子帳票作成業務においては一括印刷側のみの判定を行うように修正しました。
- 消費税元帳（αの場合は消費税／消費税元帳）
 - ① 収益科目の端数処理において、新規会社登録・修正・削除業務の端数処理設定に関係なく、常に端数処理が「切捨て」となっていたのを修正しました。
 - ② 新規会社登録・修正・削除業務の端数処理設定で「切上げ」「四捨五入」のいずれかを選択している状態で、逆仕訳などにより、科目残がマイナスの値となっている場合に、端数処理が正しく計算されていなかったのを修正しました。

◆ その他の改良・修正を行いました

※詳細は、次ページからの“財務処理 d b（VERSION: 14.307）の変更点”を参照してください。

ご注意

- 他の I C S システムとマスターのやり取りが行われる場合は、他の I C S システム側も当改正対応プログラムのインストールを行い、バージョンを統一してください。

財務処理db (VERSION:14.307) の変更点

改良

I. 請求書管理オプション

1) 概要

●請求書管理オプションに関する動作等について下記の改良を行いました。

- ・請求書管理オプションと財務処理db マスターの連携方法の変更
- ・仕訳連携における会計処理の追加
- ・「原票イメージ保存：行わない」のマスターでの仕訳連携に対応
- ・仕訳連携時のメッセージを変更
- ・会社選択画面にて連携済マスターにアイコンを追加

※請求書管理オプションを使用するには、別途ご契約が必要です。

2) 対応詳細

①請求書管理オプションと財務処理db マスターの連携方法を変更しました。

従前は、仕訳入力業務起動時に連携済マスターが存在していない場合、連携を行うかのメッセージを表示していました。



変更後は、仕訳入力業務でのメッセージを廃止し、新規会社登録・修正・削除業務の経理処理情報タブに請求書管理オプションとの連携を行うかの設定を追加しました。

会計基本情報 / 経理処理情報 / 消費税情報 / ユーザ設定情報		
検査入力	行わない	
部門入力	行わない	
OCR処理	行わない	
原票イメージ保存	行う	※タイムスタンプの付与を保存条件とする
原票イメージ送信	行わない	
電子帳簿保存	行わない	
科目コード出力	行わない	
確定済み仕訳の修正	不可	
比率計算時の端数処理	切捨て	
伝票番号の出力桁数	7桁	
証憑番号の使用	使用しない	
請求書管理オプションの連携	行う	連携設定
推定在庫	未使用	粗利益率設定

・「請求書管理オプションの連携」はデフォルトが「行わない」となっています。

連携を行う場合は、「行わない」から「行う」に変更してください。

連携の解除を行いたい場合は「行う」から「行わない」に変更してください。

※従前より連携済のマスターに関しては、当プログラムをインストールした時点で「行う」となります。

請求書管理オプションの連携	行わない
推定在庫	行う
	行わない

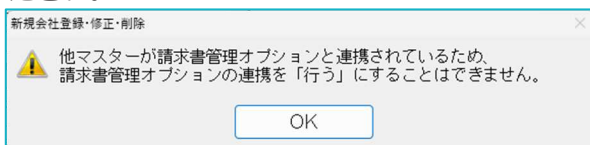
・「請求書管理オプションの連携」は「原票イメージ保存」が「行わない」場合でも、設定することが可能となっています。（詳細は後述の③をご確認ください。）

- ・連携が行えるマスターは1マスターのみとなっています。
すでに連携済のマスターが存在している場合、他のマスターでは経理処理情報タブに下記のメッセージを表示します。

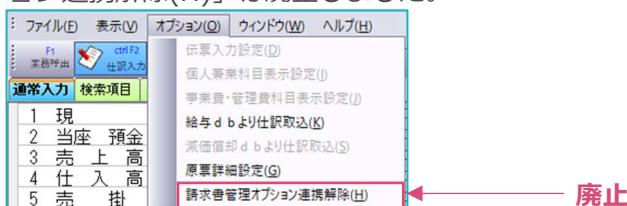
確定済み仕訳の修正	不 可	他マスターが請求書管理オプションと連携されています。設定を変更する場合は先に連携を解除してください。
比率計算時の端数処理	切捨て	
伝票番号の出力桁数	7桁	
証憑番号の使用	使用しない	
請求書管理オプションの連携	行わない	

また、上記の状態で「請求書管理オプションの連携」を「行う」にして、登録（修正書込み）を行った場合、下記のメッセージを表示し、登録画面へ戻ります。

「行わない」に変更するか、連携済マスターを「行わない」に変更してから、再度登録を行ってください。



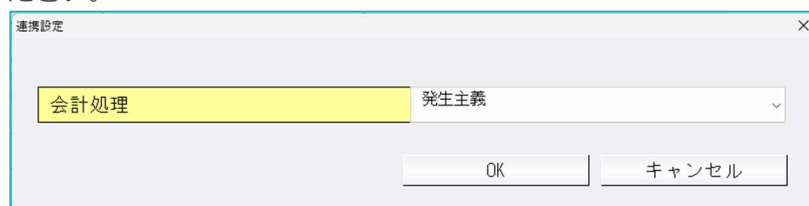
- ・「請求書管理オプションの連携」を「行う」にした場合、選択欄の右横には「連携設定」というボタンが表示されます。
このボタンは請求書管理オプションから連携される仕訳の会計処理方法を選択することが可能となっています。（詳細は後述の②をご確認ください。）
- ・仕訳入力業務での連携方法の廃止に伴い、仕訳入力業務のオプション(O)から「請求書管理オプション連携解除(H)」は廃止しました。



- ②連携される仕訳の会計処理の認識基準を選択できるように対応しました。
従前は現金主義での仕訳しか作成できませんでした。
今回の対応で、発生主義での仕訳を作成することができるようになりました。
- ・新規会社登録・修正・削除業務に、会計処理の選択を行える設定を追加しました。
「請求書管理オプションの連携」が「行う」の場合に、表示されます。

校番入力	行わない	
部門入力	行わない	
〇〇R処理	行わない	
原票イメージ保存	行 う	※タイムスタンプの付与を保存要件とする
原票イメージ送信	行わない	
電子帳簿保存	行わない	
科目コード出力	行わない	
確定済み仕訳の修正	不 可	
比率計算時の端数処理	切捨て	
伝票番号の出力桁数	7桁	
証憑番号の使用	使用しない	
請求書管理オプションの連携	行 う	連携設定
推定在庫	未使用	粗利益率設定

- ・「連携設定」ボタン押下で、下記のダイアログを表示します。
デフォルトは「発生主義」になっていますので、必要に応じて「現金主義」へ切り替えを行ってください。



《注意》

従前より連携済みのマスターに関しては、当プログラムをインストールした時点で「発生主義」に切り替わります。

従前は「現金主義」の設定のため、連携時に作成される仕訳が異なりますので、ご注意ください。すでに連携済みの仕訳には影響ございませんので、必要に応じて、仕訳の修正または会計処理の変更をお願いいたします。

《会計処理による仕訳の違い》

●現金主義

- ・仕訳連携が可能になるタイミング、作成される仕訳どちらも従前と同様になります。
請求書管理オプションで「支払済」のステータスになっている請求書があった場合に、下記の仕訳の連携が可能になります。

(1)支払情報のみから作成される場合の仕訳

未確定科目 / 預金科目

(2)支払情報と支払手数料情報から作成される場合の仕訳(支払手数料は自社負担の場合のみ)

諸口 / 預金科目

未確定科目 / 諸口

支払手数料※ / 諸口

※業種区分が個人の簡易科目体系または病院の場合、「支払手数料」ではなく「雑費」となります。

●発生主義

- ・従前の現金主義と異なり、費用の発生仕訳、支払仕訳の2種類の仕訳が作成されます。
- ・仕訳連携が可能になるタイミングは、下記の2つのタイミングが存在しています。

(1)請求書管理オプションで請求書のステータスを「確定」に変更し、タイムスタンプが付与されたタイミング

※「原票イメージ保存：行わない」マスターの場合は、ステータスを「確定」に変更したタイミングで仕訳連携可能となります。

(2)請求書管理オプションで請求書のステータスが「支払済」に変更されたタイミング

- ・上記のタイミングごとに下記の仕訳が連携可能となります。

(1)請求書管理オプションで請求書のステータスを「確定」に変更し、タイムスタンプが付与されたタイミングの仕訳

※「原票イメージ保存：行わない」マスターの場合は、ステータスを「確定」に変更したタイミングの仕訳

未確定科目 / 買掛金※1

(2)請求書管理オプションで請求書のステータスが「支払済」に変更されたタイミングの仕訳

i .支払情報のみから作成される場合の仕訳

買掛金※1 / 預金科目

ii .支払情報と支払手数料情報から作成される場合の仕訳(支払手数料は自社負担の場合のみ)

諸口 / 預金科目

買掛金※1 / 諸口

支払手数料※2 / 諸口

※1 業種区分が個人の簡易科目体系（不動産）の場合、「買掛金」ではなく「未払金（不）」となります。

※2 業種区分が個人の簡易科目体系または病院の場合、「支払手数料」ではなく「雑費」となります。

《仕訳に関する注意事項》

- ・請求書管理オプションで、連携が行われる仕訳の科目は変更できません。
財務処理 db で仕訳作成後に手修正をお願いいたします。
- ・仕訳連携を行うマスターで該当科目が「不使用」に設定されている場合は、小分類内の明細科目を科目順で確認して使用します。
小分類内すべての明細科目が「不使用」に設定されている場合は、「未確定科目」を設定します。
- ・連携される情報は「原票イメージ」「取引年月日」「請求金額」「取引先」となっています。
連携される金額は請求金額（税込）のみとなっており、税率、税額、登録番号については、請求書管理オプションで入力を行っていても連携されません。
財務処理 db で仕訳作成後に手修正をお願いいたします。

《補足 1（DX Connect Gate 連携なし）》

- ・DX Connect Gate の契約がない場合でも、請求書管理オプションが使用できるように対応しています。
- ・前述の《会計処理による仕訳の違い》で記載している内容は、DX Connect Gate の契約がある場合の動作となっております。
- ・DX Connect Gate の契約がない場合は、発生主義の一部の仕訳のみが仕訳連携可能となっており、仕訳連携が可能になるタイミング、作成される仕訳は下記の通りです。
(1)請求書管理オプションで請求書のステータスを「確定」に変更したタイミングの仕訳
※「原票イメージ保存：行わない」マスターの場合は、ステータスを「確定」に変更したタイミング
未確定科目 / 買掛金※
※業種区分が個人の簡易科目体系（不動産）の場合、「買掛金」ではなく「未払金（不）」となります。

《補足 2（タイムスタンプの付与タイミング）》

- ・請求書管理オプションでのタイムスタンプの付与タイミングは、受領請求書一覧に保存された請求書に対して、夜間に 1 日 2 回バックグラウンドで自動付与されます。（従前と同様）
- ・同日アップの『請求書管理オプション（Ver.1.101）』にて対応を行った、DX Connect Gate の契約がない場合でも、契約がある場合と同様の上記タイミングでタイムスタンプの付与を行います。

③「原票イメージ保存」を「行わない」に設定しているマスターでも、請求書管理オプションとの連携が行えるように対応しました。

従前は「原票イメージ保存」を「行う」に設定しているマスターのみ請求書管理オプションとの連携が可能でした。

今回の対応で「原票イメージ保存」の設定に関わらず、請求書管理オプションとの連携が可能になりました。

- ・「原票イメージ保存」を「行う」に設定しているマスターについては、請求書管理オプションとの連携を行った場合、仕訳データ+証憑データの取り込みが行えます。（従前と同様）
※請求書管理オプションとの連携方法については変更があります。
詳細は前述の①をご確認ください。
- ・「原票イメージ保存」を「行わない」に設定しているマスターで、請求書管理オプションとの連携を行った場合、仕訳データのみ取り込みが行えます。
「原票イメージ保存」の設定により、取り込めるデータが下記のように異なっています。

(1)「原票イメージ保存」が「行う」の場合

- ・仕訳データ+証憑データの取り込みが可能
- ・摘要には取引先名称のみを転記

番号	日付	伝票	借方	貸方	金額	税額	消費税	変	摘要
0	23/04.01		未確定科目	買掛金	10,000				サンプル株式会社

(2)「原票イメージ保存」が「行わない」の場合

- ・仕訳データのみ取り込みが可能
- ・摘要には取引先名称+ICS 請求書管理番号を転記

番号	日付	伝票	借方	貸方	金額	税額	消費税	変	摘要
22	04.01	未確定	科目	買掛金	10,000				請：100 サンプル株式会社

④仕訳入力業務起動時の、請求書管理オプションから連携可能なデータがある場合のメッセージを下記のように変更しました。

《変更前》

仕訳入力



受領請求書の支払仕訳データがあります。
ダウンロードしますか？

はい(Y) いいえ(N)

《変更後》

仕訳入力



取込対象仕訳データが存在します。
取込を行いますか？

はい(Y) いいえ(N)

⑤会社選択画面にて、請求書管理オプションと連携しているマスターにアイコンを表示するように対応しました。

一覧表示及び選択処理
処理を行う会社を選択して下さい

業種選択(F4):

表示順序(F6): 業種/区分 順

会社コード	法人番号	業種	合併	会社名	期末年月	財	消	内	減	法	所	届
00000001		法人		請求書管理オプション	08年03月	○	○					
00000002		法人		サンプル株式会社	08年03月	○	○					

簡易絞り(F7)

五十音: 期末年月: 簡易検索

会社コード入力: 00000002

法人番号入力:

選択(ENTER)

新規作成(F12)

キャンセル(ESC)

初期状態(F2)

過年度(F9)

検索(F8)

FinTech 連携マスターや、共有オプションを行っているマスターの場合は、下記形式でアイコンを表示します。

・請求書管理オプション + 共有オプション

会社コード	法人番号	業種	合併	会社名	期末年月	財	消	内	減	法	所	届
00000001		法人		請求書管理オプション	08年03月	○	○					
00000002		法人		サンプル株式会社	08年03月	○	○					

・請求書管理オプション + FinTech 連携

会社コード	法人番号	業種	合併	会社名	期末年月	財	消	内	減	法	所	届
00000001		法人		請求書管理オプション	08年03月	○	○					
00000002		法人		サンプル株式会社	08年03月	○	○					

・請求書管理オプション + 共有オプション + FinTech 連携

会社コード	法人番号	業種	合併	会社名	期末年月	財	消	内	減	法	所	届
00000001		法人		請求書管理オプション	08年03月	○	○					
00000002		法人		サンプル株式会社	08年03月	○	○					

Ⅱ. 登録・入力

1) 仕訳入力

①証憑/カード/通帳のすべての読取種別において、下記の年度を読み取った際の認識結果を変更しました。※証憑読み取りは電子帳簿保存法オプションの契約が必要です。

《対応年度》

●証憑

- ・年度を2桁で「09」と読み取った場合、2027年（令和9年）と認識
- ・年度を1桁で「9」と読み取った場合、2027年（令和9年）と認識

●カード

- ・年度を2桁で「26」と読み取った場合、2026年（令和8年）と認識
- ・年度を2桁で「09」と読み取った場合、2027年（令和9年）と認識
- ・年度を1桁で「9」と読み取った場合、2027年（令和9年）と認識

●通帳

- ・年度を2桁で「08」と読み取った場合、2026年（令和8年）と認識
- ・年度を1桁で「8」と読み取った場合、2026年（令和8年）と認識
- ・年度を2桁で「26」と読み取った場合、2026年（令和8年）と認識
- ・年度を2桁で「09」と読み取った場合、2027年（令和9年）と認識
- ・年度を1桁で「9」と読み取った場合、2027年（令和9年）と認識

修正

Ⅰ. 登録・入力

1) 仕訳入力

①出納帳入力で摘要において、Enterキーでの前行複写を行った際に、2行前の消費税情報（税率、免税事業者等からの課税仕入れ、登録番号）を複写してしまっていたのを修正しました。

②定型仕訳の摘要に半角のアポストロフィー「'」が使用されている仕訳を、新規入力行で呼び出した際に、書き込みが正常にできなくなっていたのを修正しました。

※上記現象が発生していた場合、業務終了後に再度仕訳入力を開くと書き込まれた状態になっていました。

Ⅱ. 出力（※DX・PROⅡのみ）

1) 総勘定元帳（αは登録・入力／指定元帳）

①「損益勘定への振替を行う」「損益勘定元帳を出力」は、出力期間に決算修正月が含まれている場合に、チェックONにすることができるが、一括印刷・電子帳票作成業務において、決算修正月が含まれているかどうかの判定が一括印刷側だけでなく、総勘定元帳側の選択も判定に含まれていたため、一括印刷・電子帳票作成業務においては一括印刷側のみの判定を行うように修正しました。

2) 消費税元帳（αは消費税／消費税元帳）

①収益科目の端数処理において、新規会社登録・修正・削除業務の端数処理設定に関係なく、常に端数処理が「切捨て」となっていたのを修正しました。

②新規会社登録・修正・削除業務の端数処理設定で「切上げ」「四捨五入」のいずれかを選択している状態で、逆仕訳などにより、科目残がマイナスの値となっている場合に、端数処理が正しく計算されていなかったのを修正しました。

3) 消費税額試算表・集計表・課税売上割合

①新規会社登録・修正・削除業務の端数処理設定で「切上げ」「四捨五入」のいずれかを選択している状態で、[F6 詳細設定]の「課税取引期間計より消費税額を算出する（総額）」にチェックを付けた場合、免税事業者等からの課税仕入れの消費税額が正しく計算されていなかったのを修正しました。

②マスターの設定を下記のように設定している場合に、既定の経理方式で表示を行うと、免税事業者等からの課税仕入れの消費税額が正しく計算されていなかったのを修正しました。

※消費税額集計表の「消費税額等」列においても同様現象が発生していたため、修正を行いました。

《設定》

- ・経理方式：一括税抜き処理
- ・税額計算：割戻し計算
- ・端数処理：切上げ

4) 銀行 CSV 取込

①貸借同一科目の場合に、科目残高が正しく集計されていなかったのを修正しました。

《対応》

(1)基本科目が科目のみの場合

→部門/枝番の有無にかかわらず、同一科目が入力されている場合は、入金/出金の金額を集計しません。(相殺します。)

(2)基本科目が科目枝番の場合

→部門の有無にかかわらず、同一科目/同一枝番が入力されている場合は、入金/出金の金額を集計しません。(相殺します。)

(3)基本科目が部門科目の場合

→枝番の有無にかかわらず、同一部門/同一科目が入力されている場合は、入金/出金の金額を集計しません。(相殺します。)

(4)基本科目が部門科目枝番の場合

→同一部門/同一科目/同一枝番の場合には、入金/出金の金額を集計しません。(相殺します。)

②科目名称が数字から始まっている場合に、その科目を入力することができなかったのを修正しました。

③取り込んだ CSV ファイルの摘要が 20 文字以上の場合に、20 文字以上の箇所に、摘要登録で設定している認識/CSV 摘要の文字列があると置換が機能していなかったのを修正しました。

検索対象範囲が 20 文字となっていたので、40 文字まで拡張を行っています。

④CSV 摘要欄に 20 文字以上の文字列が表示されている際に、フォーカスが外れたタイミングで 20 文字までになってしまう場合があったのを修正しました。

⑤マルチウィンドウ時に、[F6 転記設定]または[F11 摘要仕訳編集]を行った場合、本来は無効となるべき「摘要登録 (Insert)」が有効となっていたのを修正しました。

以 上